

## 成果の説明書

太田 慧	地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>【教育上の成果に関する事項】</p> <p>本年度は、地理学、観光地理学、地理情報システム論、地域統計論、基礎演習、演習 I、演習 II を担当した。詳細は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 地理学：地理学の基礎的な考え方や理論を紹介し、主に人文地理学のテーマを具体的な地域をとりあげながら説明することで、地理学的な知識の定着を図った。また、毎年出題している受講者が「似ている」と感じた都市や地域を地誌学的に説明するレポート課題を課すことによって、2 地域の比較から地域を論じる視点を身に付けさせた。</li><li>・ 観光地理学：観光地理学の理論をもとに①観光地の諸定義、②観光地発展史、③観光地の諸類型、④観光地の課題と可能性について具体的な地域の事例をもとに解説するとともに、観光地のオーバーツーリズムをはじめとした諸課題について具体例を示しながら考える講義を展開した。</li><li>・ 地理情報システム論：地理情報システム（GIS）の基礎的な理論や考え方を伝え、地理情報システムのソフトウェアである QGIS を用いた実習を実施した。これにより、GIS を用いた地域分析の基礎と地図によるプレゼンテーション技法を習得させた。</li><li>・ 地域統計論：地域政策学部での今後の学習に必要な基礎的な統計の知識について、WebGIS などを紹介しながら実践的な内容を紹介した。</li><li>・ 基礎演習：2 年生向けのゼミを担当し、観光地理学の書籍「ツーリズムの地理学－観光から考える地域の魅力（二宮書店，2019）」の輪読を行った。本年度の 2 月には 2 年生が作成した巡検プランに基づいて新大久保における巡検を実施した。</li><li>・ 演習 I：本年度の 3 年生向けのゼミは、高崎市の地形模型を作成し、そこに GIS で作成した主題図を投影するプロジェクションマッピングを作成した。また、春に静岡県熱海市においてゼミ合宿を実施した。</li><li>・ 演習 II：本年度の 4 年生向けのゼミは、主に卒業論文指導を行った。9 月には地域づくり学科 3 ゼミ合同の中間報告会を実施するとともに、2 月の卒論発表会において成果報告を行った。ゼミ生の卒業論文は卒業論文集としてまとめた。</li></ul> <p>【研究上の成果に関する事項】</p> <p>今年度に公表した研究上の成果は以下のとおりである。</p> <p>（著書）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 太田 慧（2025）：第 4 章 関東地方一変化を続ける巨大都市圏一，仁平 尊明・菊地 俊夫（編）『シリーズ〈世界を知るための地誌学〉 日本』，朝倉書店，pp. 39-51.</li></ul>	
<p>2 その他の事項</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 2024 年 10 月に演習 I で作成した高崎市の地形模型を用いたプロジェクションマッピングを活用した地域めぐり「地形模型で学び、榛名地域をめぐる」を実施し、演習 I 受講生とともに市民に対して榛名神社周辺の観光資源を解説した。</li></ul>	

### 3 次年度以降の計画・抱負

#### 【教育関連】

今年度担当した科目の改善を行うとともに、次年度は講義・ゼミに向けた授業を実施するための準備を行う。

#### 【研究関連】

- ・ 継続して取り組んでいるコロナ禍前後の沿岸地域における観光の課題などの研究課題をまとめる。
- ・ 地域科学研究所で取り組んでいる「高崎経済大学周辺の地域交通とその将来性に関する研究」をまとめ、原稿を執筆する。